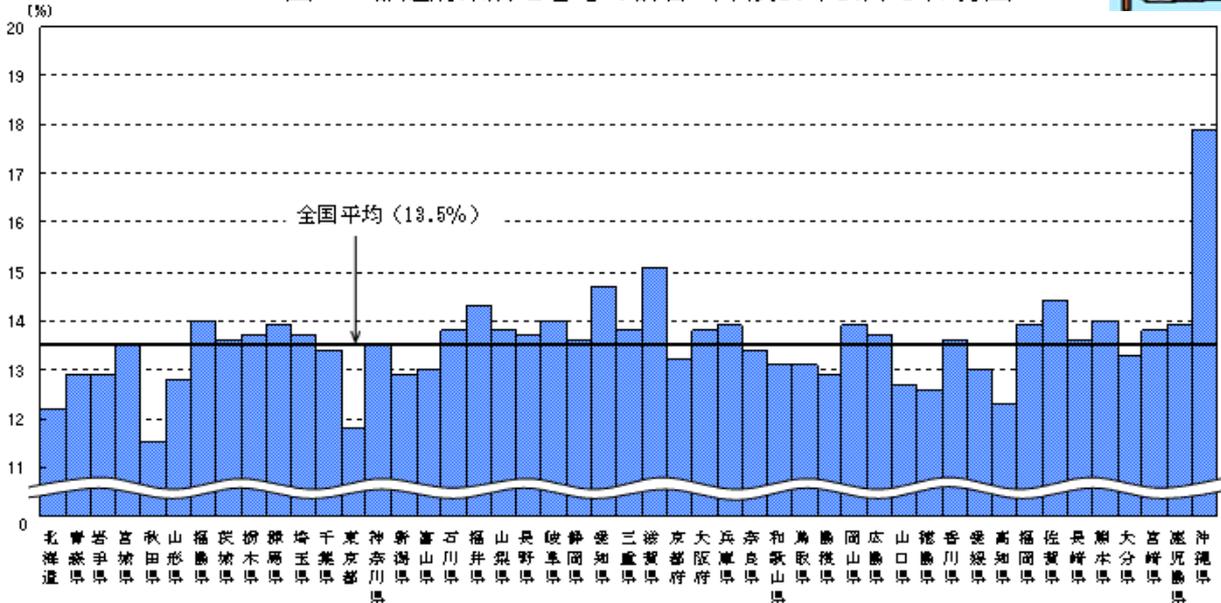




こどもの日にちなんで、総務省統計局より、子どもに関する様々な統計が発表されました(H21.4.1現在)。その中で、都道府県別のこどもの割合を示したのが、以下のグラフとなっています。

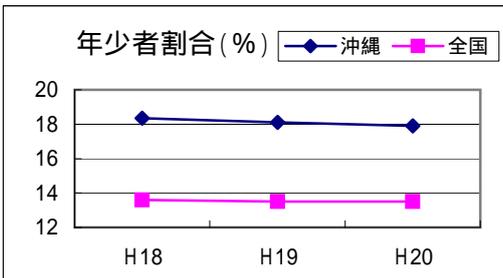


図4 都道府県別こどもの割合 (平成20年10月1日現在)



都道府県別にこどもの割合(平成20年10月1日現在)をみると、沖縄県が17.9%と最も高く、次いで滋賀県が15.1%、愛知県が14.7%などとなっています。一方、秋田県が11.5%と最も低く、次いで東京都が11.8%、北海道が12.2%などとなっています。

毎年群を抜いて年少者割合の高い当県ですが、年少者が増加しているわけではありません。

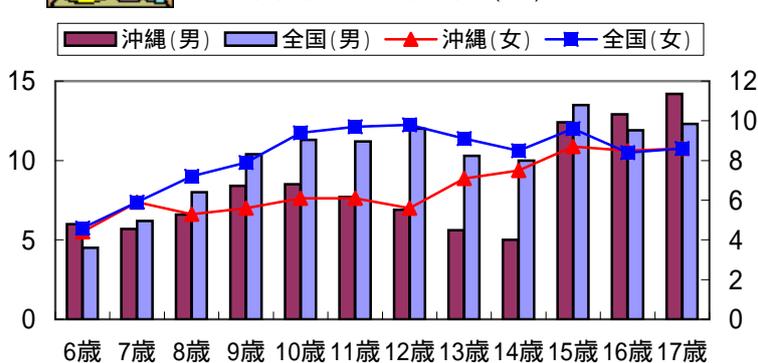


左のグラフを見ても解るように、年少者割合は全国と同様に緩やかな減少傾向を示しています。

前年と比べると、こどもの割合が上昇しているのは東京都のみとなっており、千葉県、神奈川県、愛知県、京都府、大阪府、岡山県、香川県、福岡県及び熊本県が横ばい、その他の道県では低下しています。



肥満傾向児の出現率 (%)



平成20年度学校保健統計調査報告書より数値を抜粋・グラフ化は統計課

今回は、子どもたちの健康状態に着目してみました。現在、当県で問題となっているメタボリックシンドロームの問題ですが、これはいつ頃から始まっているのでしょうか。

教育委員会から発刊されている「平成20年度学校保健統計調査報告書」から数値を抜粋してみました。

この数値を見ると、小学校から中学校卒業(年少者)までは全国よりも肥満傾向児の比率は下回っていますが、15歳から17歳になると急激に増加し、全国の平均を追い越してしまっています。

この時期の生活習慣がどのようになっているのか、考えてみる必要があるように思われます。

資料:「平成20年度学校保健統計調査報告書」沖縄県教育委員会
総務省統計局「我が国のこどもの数 -「こどもの日」にちなんで- (「推計人口」から)」、
<http://www.stat.go.jp/data/jinsui/topics/topi390.htm>